

すずかけ

第52号 令和元年10月17日

踊ってきました♪	1
当院待望の泌尿器科医師が常勤に！	2-3
認知症の方、ご家族も安心して入院できる病院に	4
知って得・知らないと損する医療のお金のはなし	4
厚生病院ラジエーションルーム	5
治療しながら自分に合った働き方を	5
委員会活動	6
〇〇さんにインタビュー	7
イベント、医師のご紹介、編集後記	8

踊ってきました♪

8月3日、「倉吉みつぼし踊り大会」に総勢120名で参加しました。参加連の中でもひととき目立つ大きなチームによる元気な踊りと掛け声で、倉吉の夏まつりを盛り上げました。みなさんからも大きな声援をいただき、ありがとうございました。これからも地域医療だけでなく、地域の賑わいにも貢献し続けたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局長 足立 正久



出発前、気合を入れて！集合写真

当院待望の

泌尿器科医師が常勤に！

本年度4月より、泌尿器科の山口医師が着任しました。外来も週4日となり、手術や入院患者にも対応できるようになりました。早速前立腺がんについて、教えていただきます。

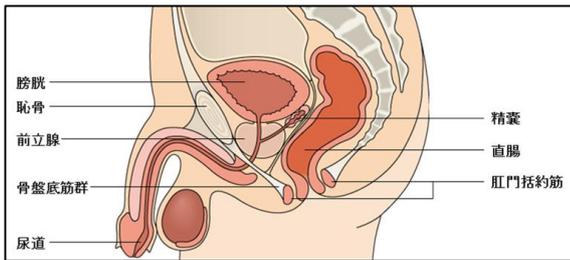
泌尿器科 副医長

山口 徳也



Q：前立腺とはどんな臓器ですか？

A：前立腺は男性のみに存在する臓器で、標準的な大きさはクルミ大、場所は膀胱と尿道の間、恥骨の後方に存在し、精液の一部である、前立腺液を産生しています。



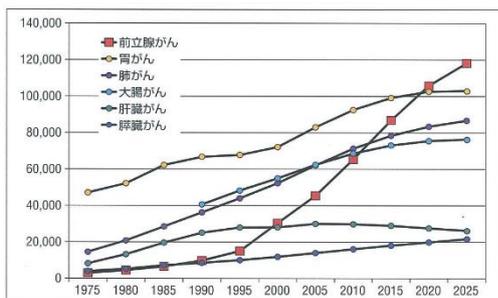
(市川智彦、鈴木啓悦編、前立腺癌のすべて第3版、28、メジカルビュー社、2011より抜粋、作図)

Q：前立腺にはどんな病気がありますか？

A：前立腺がんと前立腺肥大症があります。前立腺肥大症は良性腫瘍で、尿道を圧迫し、排尿障害などの症状が早期から見られます。一方で前立腺がんは早期にはほとんど症状はありません。

Q：患者さんはどれくらいいますか？

A：下の図はがん罹患数（1年間にがんと診断される数）で前立腺がんは2000年以降急



(がん・統計白書2012、篠原出版社より)

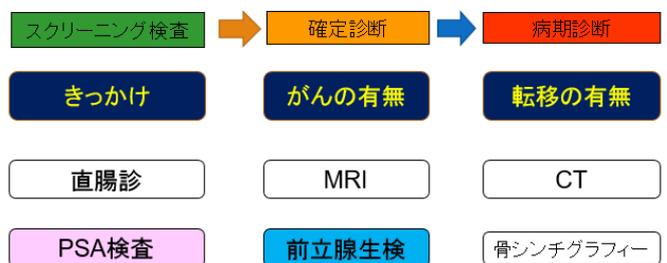
速に増加し、2020年には男性の1位になると予想されています。

Q：どういう人が前立腺がんになりやすいのでしょうか？

A：年齢が高いこと、人種（黒人、白人の方がアジア系よりなりやすい）、家族歴があること（親、兄弟に前立腺がんがあると2倍なりやすい）が関係していると言われています。その他、肥満や食生活の欧米化も関係している可能性があります。

Q：診断の流れを教えてください。

A：診断の流れは、スクリーニング検査⇒確定診断⇒病期診断となります。



まずは、スクリーニング検査として、直腸診検査とPSA検査を行います。

直腸診検査

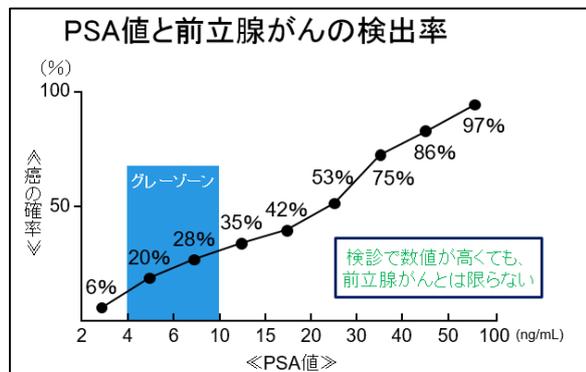
大まかな前立腺のサイズと可動性、前立腺がんを疑うしこりが無いか、を確認します。

PSA検査

PSAは血液検査で確認できる数値です。PSAは前立腺特異抗原と言われる、前立腺から分泌される蛋白分解酵素で、精液中のセミノゲリンを分解し、精液を液状にする作用を持ちます。PSAは正常な前立腺において、ほとんどが精液中に存在し、わずかに血液中にも流入します。一方で前立腺がんでは、前立腺上皮細胞の基底膜が崩壊し、PSAが血液中に多く流入します。検診では4.0以上となると陽性と判定されます。PSA値は病状をよく反映するため、前立腺がんの診断の段階、治療中においても、定期的に採血を行い、数値の推移を確認します。

Q：この検査で陽性だとがんですか？

A：検診で陽性となっても前立腺がんとは限りません。PSA値は4.0を超えると検診で陽性となりますが、4.0-10.0はグレーゾーンとされており、実際に前立腺がんが検出される割合は20-30%程度とされています。



NHKきょうの健康7月号 No.184 (2003年) 財団法人 前立腺研究財団出版より

Q：次はどんな検査をしますか？

A：確定診断のために、MRI検査を行った上で、前立腺生検検査を行います。

MRI検査

MRIは前立腺の内部を詳しく観察することに優れているとされ、前立腺生検に先立って行われます。MRIでがんが疑われる部位は、続いて行う前立腺生検の際のターゲットとなります。また前立腺がんが検出された場合には、治療方針決定の際の参考となります。

前立腺生検検査

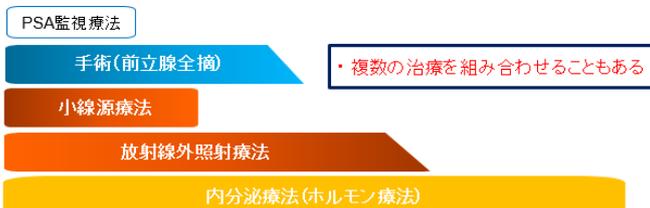
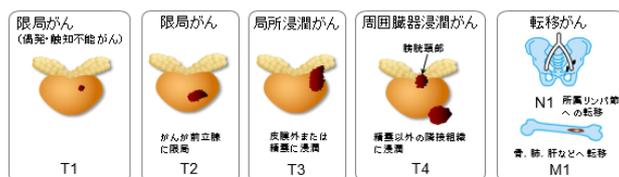
前立腺生検は直腸を通して前立腺に針を刺し、前立腺組織を採取する検査です。採取した前立腺組織の病理検査を行い、がんを確定します。検査は30分程度で10-12ヶ所の組織を採取します。当院では1泊2日で行っています。

Q：治療方法について教えてください。

A：最も程度が軽い場合は、治療を行わず、PSA値のみを定期的に計測するPSA監視療法を行う場合もあります。局所治療としては前立腺を外科的に切除する前立腺全摘除術と放射線治療があります。放射線治療には外から前立腺に放射線を当てる外照

射療法と放射線チップを前立腺に植え込む小線源療法があります。基本的に局所治療は根治を目指して行われます。

一方で転移を認め、全身治療が必要な方に対しては、ホルモン治療が行われます。ホルモン治療により多くの方が良好な治療効果を得ることができますが、時にホルモン治療抵抗性となった場合は、抗がん剤治療が必要になります。



上の図は、右に行くほど病期が進行していることを表しており、下半分の帯が各治療の適応範囲です。病期が低い方が、治療選択肢が多いことがわかります。

前立腺がんの生存率

基本的に転移のないステージ1~3(T1~T3)の場合5年相対生存率、すなわち前立腺がん自体での5年生存率はほぼ100%とされています。診断時に転移を認めるステージ4では3年相対生存率は78%、5年相対生存率は68%とやや低い数値になりますが、適切な治療により良好な治療成績が得られます。

Q：みなさんに伝えたいことは？

A：50歳を過ぎたら1度は検診でPSA検査を受けましょう。前立腺がんは多くの治療法があり、万一進行していても、適切な治療で良好な治療効果が得られます。職場や市町村検診では選択項目になっている場合もありますので、検診時に一度チェックしてみるとよいでしょう。

認知症の方、ご家族も 安心して入院できる病院に

認知症ケアチーム

認知症看護認定看護師 有福 尚子

認知症を抱えながら入院治療が必要な方にとって、急激な環境の変化は不安が増し、混乱を招く恐れがあります。本人にとっても、支えるご家族にとっても、心配なことが多いと思います。当院では、認知症を抱えていてもその人らしく、安心・安全に入院生活を送ることができるようケアを提供するための取り組みを行っています。

2017年に認知症ケアチームを発足し、看護師が中心となって認知症ケア活動を開始しました。2018年からは新たに多職種でチームを結成し、さらに質の高い認知症ケアが行えるよう活

動を行っています。メンバーは脳神経内科医、精神科医、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医療事務、認知症看護認定看護師で構成されています。毎週木曜日に各病棟を巡回しています。入院されている認知症の方のケアや退院支援について、それぞれの専門性を生かしてチームでアドバイスを行っています。

各病棟には認知症対応向上研修を受講した看護師が1名以上在籍していますので、困ったことがあれば遠慮なくご相談ください。



認知症カンファレンスの様子

知って得・知らないと損する 医療のお金のはなし

事務局医事課

課長 山田 昇

今回は、知っているのと得する、家計に優しくなる医療費に関する制度をご紹介します。

高額療養費制度

1か月の医療費が100万円だった場合、3割負担の70歳未満の方は30万円の支払いが必要です。しかし、「限度額適用認定証」を提示すると、所得に応じて負担が少なくなります。例えば「区分ウ」の場合上限87,430円/月になります。

◎ワンポイント…認定証区分を確認してください。仮に病気などで退職し「収入が無いから」と所得申告をしないと、所得区分の一番高い「区分ア」になる場合がありますようです。

(所得の修正申告は、お住いの市町村役場へ。)

所得税確定申告の医療費控除

1年間に支払った医療費が一定の額を超えた場合、確定申告で手続きをすれば還付金を受け取ることができます。また、申告すると翌年の住民税も安くなります。申告には、医療費の領収書を5年間自宅保存しておく必要があります。領収書をなくされた場合、当院では領収書に代わる療養費支払証明書を発行することも可能ですが、手数料として1,100円が必要になります。牛丼2杯程度食べられますね。ご家族のものも含めて大切に保管してください。

(詳細は、税務署・市町村役場へ。)

高額療養費制度については、入院した場合や、医療費が高くなりそうな方には、病院から説明しています。認定証の提示は職員がお願いした日までをお願いします。そのほかにも、医療費についてのご相談は、お近くのスタッフまで声をおかけください。



厚生病院

ラジオーションルーム

中央放射線室

室長 森里 昭典

中央放射線室は、現在、診療放射線技師 14 名が在籍しています。

CT 検査では、最先端の 320 列 CT 装置を用いて、迅速な撮影や造影技術により、病変を正確に描出します。スタッフは救急撮影認定技師、X 線 CT 認定技師、肺がん CT 検診認定技師が中心となり、高度な CT 検査を支えています。

MRI 検査は、磁場を利用した検査で、骨の影響を受けず、病変部、正常組織（臓器・筋肉・脂肪）などの内部構造に対してもコントラスト良く描出できます。認定資格である MR 専門技術者が中心となり、心臓 MRI や造影剤を使用しない脳の機能検査など新しい撮影検査も提供しています。

マンモグラフィは X 線を使用した乳房撮影検査です。乳がん検診も行っており、デジタルマンモグラフィ検診施設画像認定取得施設であることや、女性の技師が多く在籍しているこ

とで安心して検査を受けていただくことができます。

核医学(RI)検査は、中部医療圏では当院が唯一の検査機関です。近隣の医療機関からの紹介患者に対して検査を行っており、病気の判定だけでなく心臓や腎機能など血流や排泄の機能検査としても重要な役割を果たしています。

放射線治療も中部医療圏では当院が唯一の実施機関です。患者さんの生活に寄り添った治療法や安全な照射精度を担保するために、放射線治療専門放射線技師が尽力しています。

今後も中部医療圏の基幹病院として高度医療を提供する役割を果たすため、各部門のエキスパートが放射線画像診断に尽力していきたいと考えています。



治療しながら

自分に合った働き方を

地域連携センター

センター長 三谷 洋子

当院のがん相談支援センターでは、今年度から「治療と仕事の両立支援」を行っています。

がん患者・経験者の 3 人に 1 人は就業可能年齢であるにもかかわらず、病気・治療のために 34%が退職・解雇になっています。仕事がないということとは、治療だけでなく生活も困難になることに繋がりがねません。

このような現状をふまえ、当院を含めた鳥取県内のがん相談支援センターでは、「がん労働相談ワンストップサポート」として、労働相談

所「みなくる」と連携し労働相談に取り組んでいます。さらに今年度 4 月から、当院と鳥取産業保健総合支援センターが協定を結び、がん患者・経験者はもとより、それ以外の疾患の方も対象に、「治療と仕事の両立支援」を開始しました。適切な治療を受けるためにも、働き続けることができるように色々な働き方を支援していきたいと思ひます。

1 人で悩まずに、がん相談支援センターにご相談ください。



すずかけの木

委員会活動

当院には、医療安全に関する委員会や感染対策に関する委員会など、法律上、設置することが義務づけられているものも含めて、多くの委員会が設けられています。委員会の多くは、医療の質の向上や、病院サービスの向上、病院運営の効率化などを目的としており、病院で働く多職種で構成されています。このコーナーではそんな委員会活動の一部をご紹介します。

医療者と患者の皆様の協力で 安全な医療を目指します！

医療安全管理委員会

(医療安全推進担当者会) 小椋 美保子

今年度は、医療安全への関心を高めるための取り組みの一つとして、職員を対象に医療安全標語を募集しました。応募総数 100 件の中からベスト 3 を選出し、院内にポスターとして掲示し、医療安全を呼び掛けていきます。

医療安全のためには患者の皆様からの協力も必要です。秋には患者の皆様からも標語を募集し、

医療安全週間の取り組みとして盛り上げていきたいと考えています。



職員からの応募の中で選ばれた優秀作品です。院内に全作品を掲示し、県民の皆様からも一般募集を行います。結果はホームページに掲載予定です。

患者の皆様信頼される

環境づくり

患者サービス改善委員会

委員長 湯浅 良恵

この委員会は、患者サービスと職員の接遇向上対策の検討、推進に関する活動を行います。それぞれの部署から多職種が委員として参加しており、3つの部会に分かれて活動します。

◆イベント部会・・・お正月、ひな祭り、七夕などの季節飾りはじめ、12月にはクリスマスコンサートを開催します。今年、12月13日です。



オカリナ演奏の様子

◆環境改善部会・・・院内を巡回して環境チェックするとともに、職員へ呼びかけて終業後に

病院周辺のゴミ拾いや除草のボランティアをしています。また毎年、患者の皆様にご協力いただき「患者満足度調査」を行って患者サービスの評価を行っています。



ゴミ拾いの様子

◆接遇向上部会・・・昨年度から「接遇ミシュラン」と称した抜き打ち調査と評価を行い、優秀な部署の表彰を行っています。また、委員手作りの接遇研修を企画してよりよい接遇を目指しています。



昨年三ツ星部署となった手術室

患者やご家族の皆様から信頼される病院を目指し、心地よい療養環境を作るため委員一同協力して楽しく活動しています。

当院には、いろいろな職種の職員が働いています。このコーナーでは、日頃、みなさまにはなかなかお会いしない職員や、陰で病院を支えている職員などにスポットを当てて、インタビュー形式でご紹介します。

臨床検査技師 上原 良太

問手：どんな仕事ですか？

上原：検査部門の中でも、血液の検査をしています。貧血があるかどうか、血液型、輸血のための検査などを行っています。検査室には他にも色々な検査があります。

問手：社会人何年目ですか？

上原：厚生病院では、今年の4月から働いています。その前にも他の病院にいたので、社会人としては10年目です。

問手：他の病院でも働いていたのですか。当院はどうですか？

上原：看護師さんや先生たち、他の部署の職員も検査室に出入りがあって、とても雰囲気がいいですね。

問手：検査技師は病院以外にも職場がありますよね。なぜ病院を選んだのですか？

上原：はい、検査センターなどでも検査技師が働いています。病院を選んだのは、患者さん



と向き合うことができるからです。ただ検体の検査をするだけでなく、この患者さんの他の病気は何か、など考慮して検査することができます。

問手：検査の仕事の魅力とは？

上原：どんな病気でも、まずは検査から始まりません。検査で間違えては適した治療ができません。とても責任重大な仕事で、そこに責任感を感じています。

問手：目標としている人はいますか？

上原：はい、います。その方は、専門知識が豊富で、医師からも信頼されています。私は輸血についての知識を高めたいです。

問手：休みの日は何をしていますか？

上原：娘が二人いるので、一緒に遊んでいます。すごくかわいいけど、自分の時間がないほど忙しいですね。



問手：輸血のプロを目指して、患者さんのためにも、良いお父さんとしても、がんばってください。

電話交換手 亀井 佳代

問手：どんな仕事ですか？

亀井：電話交換手として、病院にかかった電話を各部署につなぎます。

問手：仕事を始めてどれくらい？

亀井：まだ半年です。先輩に教えてもらいながら日々勉強中です。

問手：なぜこの仕事をしようと思ったのですか？

亀井：面白そうと思ったからです。実際とても味のある仕事です。奥が深い…。多種多様な電話があり、学ぶことが多いです。

問手：大変だなと思うことはありますか？

亀井：この仕事は電話をつなぐ仕事なので、つなぐことができないときには、相手に迷惑をかけるので、申し訳ないと思います。

問手：亀井さんの声はとても聞き心地がいいです



ね。何か工夫されているのですか。

亀井：ありがとうございます。実は初めは緊張して早口になったり、高い声になったりしていたんです。でも先輩から「高齢者は高音が聞き取りにくい人が多い」と聞き、今は相手に合わせてトーンを変えるようにしています。

問手：先輩、亀井さんの仕事ぶりはどうですか？

先輩：やる気にあふれていてとても良いです。彼女の良いところは、大変なことでもいやと感せず、忘れた方がいいことはすぐ忘れるところ。天職だと思います。

問手：これからもみなさんの電話をスムーズに取り次いで、きれいな声を聞かせてください。



イベント報告

❁オープンホスピタル2019 2019年6月29日(土)

午前は看護学生、午後は地元高校生を対象に開催

❁健康公開講座 あなたががんになったとき 2019年6月23日(日)

『緩和医療と終末医療』 手術センター長 堀 真也

『がんとの向きあいかた』 緩和ケア認定看護師 佐々木 美鈴

❁健康公開講座 排尿・排便とがん 2019年9月29日(日)

『前立腺がん』 泌尿器科副医長 山口 徳也

『大腸がん』 消化器内科部長 野口 直哉

たくさんの方にご参加いただき
ありがとうございました。



イベントのお知らせ

❁健康公開講座 2020年3月1日(日)

時間：13:00~15:00

場所：倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

今年度最後の健康公開講座
です。多くの方のご参加を
お待ちしております。



医師のご紹介

放射線科 部長 河合 剛

8月1日付けで放射線科部長を拝命しました。放射線科医師の仕事というものは、一般的にはあまり知られていないのですが・・・という決まり文句を、これまで毎回続けてまいりましたが、昨今のテレビドラマ“ラジエーションハウス”のおかげで、うれしい方向へと変化してまいりました。放射線科の画像診断、IVR、放射線治療など、例



えば、内科の医師1人、放射線科の医師1人、力を合わせて、1たす1を“3”にして、患者さんに質の高い医療を提供できるような仕事を目指して、日々尽力しております。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

麻酔科 医長 小山 茂美

7月より松江市立病院から赴任してきました小山と申します。少しでも皆様のお役に立ちたいと思いますので、何卒よろしく願い申し上げます。



【編集後記】今年度から念願の泌尿器科常勤医師の着任を果たし、前立腺疾患のお話中心に特集を組みました。ご高齢の患者さんが増える中、認知症ケアチーム活動報告とともに掲載しましたので参考になれば幸いです。一方、当院での多職種各分野で活躍するスタッフのインタビュー紹介では爽やかな新風を吹き込んでいただいています。倉吉夏の風物詩「みつぼし踊り」では120名を超える全職域からの参加で盛り上がり、その活気と笑顔を本紙の表紙に掲載、当院も令和新時代の一步を踏み出しました。

(広報委員長 紙谷秀規副院長)